

フィリピン国「RECYINT」ビジネスモデルの 市場参入可能性にかかる基礎調査 株式会社ツルオカ(茨城県結城市)

対象国廃棄物分野における開発ニーズ(課題)

- 使用済自動車(ELV)の処理に関する法規制がない。
- ジャンクショップ等でELVが解体されるケースが多く、回収ルートを確認することが容易ではない。
- ELV解体に伴う廃棄物、有害物、危険物の適正処理インフラが完備されていない。

提案製品・技術

- ELVの受入から部品リユースおよび製品製造までの一貫した自動車リサイクル事業。
- 特に、金属スクラップをリサイクルし、建設機械のカウンターウェイトを製造する技術は当社独自の事業モデルである。

本事業の内容

- ・ 契約期間: 2020年3月～2021年2月
- ・ 対象国・地域: フィリピン国マニラ首都圏及びその周辺地域
- ・ カウンターパート機関: フィリピン国環境天然資源省環境管理局(EMB)有害廃棄物部
- ・ 案件概要:

フィリピン政府は、自動車利用の拡大に伴う今後の使用済自動車(ELV, End of Life Vehicle)の大量発生や策定した「ジブニー(乗合輸送車両)全廃計画」への対策として、ELV処理のガイドライン化の必要性を強く認識しているが、法規制がなく、ELVの解体を適切に行う事業者はほとんど存在しない。そのような状況下、自動車リサイクル事業の展開を通じて、現地企業、人材、試験機関の育成、さらに中期的には政府機関と協力してELV法規制の整備に協力・貢献する。



リサイクルライン



カウンターウェイト
にリサイクル

開発ニーズ(課題)へのアプローチ方法(ビジネスモデル)

- ELVの発生量は2025年に14万台と推計されており、ELVの発生量は順調に増加していくと予想される。
- 自動車リサイクル工場を建設し、ビジネスパートナーとともにELVの統合的な処理体制・サービスを確立する。
- 中長期的には、日本や周辺諸国を含むグローバルなりサイクル体制を構築する。

対象国に対し見込まれる成果(開発効果)

- ELVの適正処理技術が移転される。
- ELVリサイクルにより、再資源化率が向上し、温暖化ガス排出削減にも貢献する。
- 自動車リサイクル事業の展開を通じて、現地企業・人材、BDS機関(試験機関、技術支援等)が育成される。
- ELV関連法規制が整備されるきっかけとなる。